

■ はじめに

本郷台駅付近は、かつては豊かな米作地でした。晩秋の黄金色に染まる稲穂のたなびく姿は、絶景と言われていました。今では想像できません。そのような農地も第二次大戦後は、米国に接収されました。

返還後は、根岸線が開通し、国有地を活用したまちづくりが進みました。大きな広場、広幅員の街路と規模の大きな街区、URや市営住宅の団地、公共的施設の整備などが行われ、今の姿になりました。

そして、ここ30年、世の中は大きく変化していますが、このまちは外見上ほとんど変わっていません。ただ、まちを利用する人たちは、少子化、高齢化や他の駅の利用など、賑わいは失われつつあります。清閑さにほっとするのどかさを感じますが、活力は低下してきていると言えます。

今、本郷台は、新しい兆しがあります。それは、南小菅ヶ谷住宅地区(国有地)の処分に伴う開発です。これを機に、本郷台の発展に向けた、新たなまちづくりを検討しています。

まちづくりには、民間の動向、都市計画の手法、公共施設の導入など多面的に考えていくべきですが、ひとつだけこだわりなければいけないことがあります。区民の皆様によるまちづくりです。まちづくりの企画、さらに、まちを利用する、まちでつながる、まちを盛り上げていく、いずれも、区民の皆様が主役で進めていくべきです。

本郷台駅のプラットフォームに上がると、栄区を見渡せる眺望に出会えます。連なる高層住宅と大きく成熟したけやき、その先に公田町や鎌倉の山々の稜線、いたち川を経由して流れくる爽やかな風を感じることができます。

そして、本郷台には、新しい息吹があります。息吹のスタートが、このまちづくりの構想です。主役である区民の皆様の関心、アイデア、参加、行動が不可欠です。どうぞよろしくお願いします。